

# 令和5年度 1・2年生 総合的な探究の時間 まとめ

## 産業能率大学 探究学習プログラム

令和5年度は以下①～③のプログラムを実施した。①ではどのように探究学習に取り組むべきかという姿勢や課題に対しての考え方について体験した。②は2年生のみで行い、プログラムの目的としては社会が求めるコミュニケーション能力とは何なのかという視点から、探究学習で協働力を養い、社会に貢献していく人材育成の一助となることを期待した。内容は仮想都市Y市に住む市民の話を聞き、住まいのアドバイザーとしてY市のいいところや改善点について情報を把握しまとめるというものだった。③はそれぞれの学年の探究活動が終了した2月に行った。探究力成長アセスメントということで、生徒が探究を通してどのように成長したのかを実感できるように設計されたプログラムで、資料を読み、問い合わせに答える形式だった。（大学の入試問題を改変したタイプのもので、小論文形式。）レポート作成の後、お互いのレポートを読み合いフィードバックを行った。

### （令和5年度実施プログラム）

- ①主体的学習者育成プログラム（問題発見編）4月25日（1・2年生）
- ②協働的学習者育成プログラム（情報共有編）5月25日（2年生）
- ③探究力成長アセスメント（1・2年生）

4月



5月



## 1年生：沼津活性化プロジェクト

### 1、総合的な探究の時間についての説明及び2年生代表者発表会（4月20日）

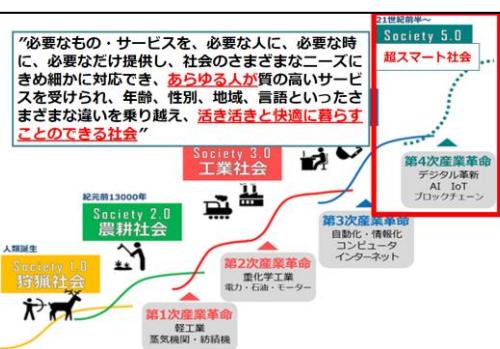
まず体育館にて、探究学習に関する導入を行った。（以下のスライド使用）

**探究学習とは？**

不確実な未来を生きる私たちが  
これからの社会を生きるために必要な力を  
身につけていく学びのこと

**これからの中社会** <https://youtu.be/BoEl9K2v2B0>





**これからの中社会で求められる力は？**

劇的な社会変化に対応し、  
よりよく生きる力  
よりよい社会を作る力

**よりよく生きる力・よりよい社会を作る力**

- ①自分で課題を見つける力  
**課題発見力**
- ②様々な人と協力して考える力  
**対話力**
- ③新しいものを生み出す力  
**実行力**

**探究学習で身につける力**

**探究で取り組むのは…**

「自分にとって未知な課題」

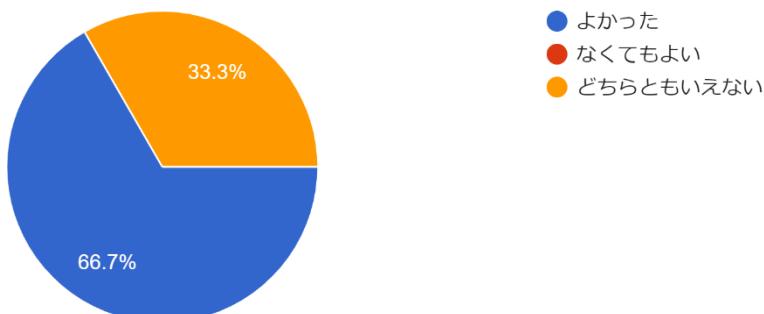
探究学習では、自分がまだ答えを知らない、  
しかも答えがすぐには出そうもない課題に  
取り組む。

**探究に答えはない  
最適解を見つける**

その後、2年生が昨年度（1年次に）行った発表を、後輩に向けて紹介した。新たな取り組みとして、探求と表現の1年間のゴールをイメージできるように企画した。代表2チームが紹介した。  
以下は教員へのアンケート結果である。

年度当初に新たな試みとして、最初に先輩の発表…会を作りました。それについてどう思いますか？

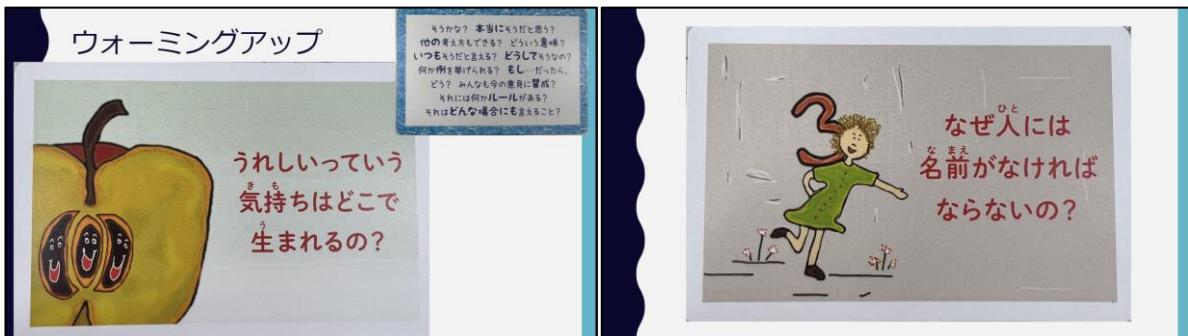
6件の回答



## 2、探究スキル・発想法の体験（ブレスト・KJ法・マインドマップ）2時間

クラスごとにグループでの発想法を体験した。以下は説明時に使用したスライドの一部です。

5月1日（ブレスト・KJ法）



### 探究の授業での態度目標

- 話すときは**相手のほうを向き、聞こえる声で話す。
- 聞くときは**話し手のほうに体を向け、誠実な態度で受け止める。
- グループワーク**は「自由に発言できる雰囲気」を作る。ただし活動に関係ない話はしない。
- 発表するときは**立って、聞こえる声で話す。

### 本日の目標

- 探究の学習サイクルを知ることができる
- 発想法技法・シンキングツールを体験し、理解する
- 仲間と協力できる

### ブレインストーミング

・テーマについて思いついたことを付せんに書いていく

#### 【ブレストの四原則】

- 質より量
- 自由奔放
- 批判厳禁
- 便乗発展



### KJ法

・ブレストでせんに書いたことの共通点（まとめり）を見つけ、グループ化する。



### やりたいことリスト

授業③ やりたいことリスト		HRNO ( )	名前 ( )
次回 5月11日(木)	までに取組み、忘れずに持ってきてください。		
あなたがやってみたいことや興味を持っていること、いつかやりたいことを100個書きだしてみよう！			
＊実現可能性はあまり考えなくていい。同じ動詞を何度も使わない。例：〇〇へ行く			
1.	26.	51.	76.
2.	27.	52.	77.
3.	28.	53.	78.
4.	29.	54.	79.
5.	30.	55.	80.
6.	31.	56.	81.
7.	32.	57.	82.
8.	33.	58.	83.
9.	34.	59.	84.
10.	35.	60.	85.
11.	36.	61.	86.
12.	37.	62.	87.
13.	38.	63.	88.
14.	39.	64.	89.
15.	40.	65.	90.
16.	41.	66.	91.
17.	42.	67.	92.
18.	43.	68.	93.
19.	44.	69.	94.
20.	45.	70.	95.
21.	46.	71.	96.
22.	47.	72.	97.
23.	48.	73.	98.
24.	49.	74.	99.
25.	50.	75.	100.



### 3、沼津市役所 出前講座「沼津市のまちづくりについて」（5月 25 日）

沼津市役所政策企画課に依頼をし、沼津のまちづくりについて講座を受講した。生徒は現状を聞き、課題意識をそれぞれ持つことができた。



### 4、沼津市役所 出前講座「分野別講座」（6月 15 日）

生徒は以下の講座から希望を提出し、2つ受講した。前回の沼津全体のまちづくりについての話に加え、今回の分野別講座の内容から課題を設定するための情報を得た。

講座	6 限	7 限
①地域自治課 「私たちの多文化共生」と「男女共同参画社会」	12	12
②政策企画課 「ユニバーサルデザイン」	24	20
③広報課 「ぬまづの宝 100 選」	26	19
④ゼロカーボン推進室 「地球温暖化とゼロカーボンシティ NUMAZU2050～気づく環境・築く未来～」	13	15
⑤クリーンセンター管理課 「みんなで考えるごみと私たち」	12	12
⑥こども家庭課 「児童虐待の防止」	21	22
⑦まちづくり政策課 「中心市街地のまちづくり」	22	26
⑧観光戦略課 「沼津市の観光戦略ビジョン」	37	40
⑨農林農地課&水産海浜課 「地産地消運動」	10	10
⑩ ウィズスポーツ課 「スポーツを通した心の交流、健康増進を目指した環境づくり」	11	12

人数



## 5、安心安全な話し合いの場作りワークショップ（6月20日）

講師に小田圭介氏を招き、この先行うグループでの話し合いにおいて、大切にしたいポイントをグループごとに考え、全体で共有した。生徒たちは積極的に意見交換を行い、ルールを自分たちで決めることができた。



## 6、課題設定（6月22日・29日）

### 探求と表現 授業⑦ 課題設定

I年 \_\_\_\_ 組 \_\_\_\_ 番 氏名 \_\_\_\_\_

**課題1** (個人) 授業③と授業④(沼津のまちづくり)・⑤(分野別講演会)の内容を記入しよう。

授業③で選んだもっと探究したいもの (3つ) Will	授業④(沼津のまちづくり) で気づいた課題 (3つ) Must	授業⑤(沼津の分野別講演会) で気づいた課題 (3つ) Must	わたしが得意なこと (3つ) Can

**課題2**私たちが取り組むプロジェクトについて考えてみよう。

① 【アイデア発想】(個人) Will - Must - Can を組み合わせて、実現や解決のためのアイデアを考えてみよう。

--

②【調査計画】(個人) 上記のアイデアを実現するために、今後調べたいことや取り組みたいことを挙げよう。

--	--

③【意見共有】(グループ) メンバーがそれぞれどんなことを考えているのか聞いてみよう。

名前	何を課題と感じているか・どんなアイデアを持っているか

④グループとしてどの方向性で進んでいこうと思うか、1~2つ書いてみよう。

--	--

上記のワークシートを個人及びグループで記入し、これまでの講座の内容のまとめグループの方向性を確認した。

## 7、探究計画書の作成（7月20日）

R5 探究計画書

1年\_\_\_級\_\_\_班  
班員

1. 設定した課題

2. 課題を設定した理由

3. 目的

4. 予想される答え（仮説）

5. 方法

6. スケジュール

探究計画書（例）

1年\_\_\_級\_\_\_班  
班員

1. 設定した課題  
どうしたら●●川周辺の生態系をよい状態に戻せるか

2. 課題を設定した理由  
最近、地域の川の汚染が問題となっており、昔からいた生物が少なくなっているので、良い状態に戻す方法を考えたい。

3. 目的  
川の生態系をよい状態に戻す方法を考える。

4. 予想される答え（仮説）  
プランクトンの量が関係ありそうなので、適切な量に調整する。  
4. 設定した課題に対して、現時点での自分たちの予想する答えを書く

5. 方法  
川の専門家にインタビュー  
本とWEBサイトで調べる

6. スケジュール  
本で調べる（夏休み）、水質調査に行く（夏休み）、専門家にインタビューに行く（9月）、11月にポスター発表

7. 調査の準備、日程、分析に書ける日数などの予定を書く

調査の種類	形式
どうしたら～できるのか	～を検索する ～を実行する
なぜ～なのか？	～を明らかにする
いつ・どこで～が～なのか？	～をする

## 8、壁打ち（7月26日）

コーディネーターによる指導を各クラス2グループ行った。この時点ではグループでの話し合いもあまり深く行えていなかったが、方向性を確認したり、質問に答えることで考えが深まったりしたようだった。



## 9、外部講師による「プレゼンテーション講座」（7月26日）

フリーナンサーの小沼みのり氏を講師に迎え、伝えると伝わるの違いや人前に出て話すときの注意点について学んだ。



## 10、夏休み課題

沼津活性化プロジェクト 夏の調べ	
HRNO	名前
班の課題：	
班員：	
調べた、聞いた方法：	何をしたのか記入しましょう。 ・どのような方法で何を調べたのか。 ・どの誰にどのように何を開いたのか。
調べたことを記入	
<p>この宿題は班課題の結論を出すのではなく、班課題を解決するにはどのような可能性があるのかを探るもので。8月31日にこの用紙を班員で互いに持ち寄り、班課題を解決するための具体的な方法（プロジェクト）を決めていく材料となります。</p>	
<p>引用した語句や文章の場合、その情報源である文献を明記するのが一般的です。特にネットからの情報はその正確性の担保という観点からも、サイト名やURLを控えておく必要があります。</p>	
情報の出典	

## 11、夏休み課題の情報交換・校外学習訪問先の選定（8月31日・9月7日）

アポイント用紙 校外学習（10/13）	
班長	HR 施 班員
班のテーマ	
質問内容	質問内容
①訪問先（事業所名等）	②訪問先（事業所名等）
訪問先住所／電話番号	訪問先住所／電話番号
希望時刻	希望時刻
訪問時刻	訪問時刻
訪問先担当者名	訪問先担当者名
学校～①までの移動手段と所要時間	
①～②までの移動手段と所要時間	
②～学校までの移動手段と所要時間	
その他メモ	その他メモ

## 12、外部講師による「インタビュー講座」（9月14日）

SBS番組プロデューサーの鈴木俊夫氏を講師に迎え、どのように相手の話を引き出すのか、演習を交えて講演していただいた。演習ではペアにインタビューした内容を全体に紹介し、校外学習にむけて、参考になるポイントが非常に多かった。



## 13、中間発表会（9月28日）

これまでの話し合いの内容をまとめ、以下6つについて発表した。

- ①設定した課題      ②課題設定の理由      ③目的
- ④予想される答え      ⑤方法      ⑥スケジュール



#### 14、校外学習（10月13日）

生徒それぞれでアポイントメントをとり、インタビューや現地調査を行った。アポイントメントは9月13日から昼休み等を使って行った。



## 15、発表会（クラス：1月11日、学年：1月18日）

校外学習のあとは、そこで得た情報をまとめたり、さらに調査や実証を行って最終発表に向けて話し合いを進めた。授業時間としては7時間行った後に発表会となった。生徒はその間にスライドを作成し、準備を進めた。



## 2年生：テーマ探究

今年度は以下7つのジャンルで希望を取り、グループ分けを行った。昨年同様クラスを解体し、自由にグループを作った。

	分野
1	環境・防災・自然科学
2	観光・シティプロモーション
3	教育
4	健康・福祉
5	国際・グローバル
6	産業振興・農林水産
7	文化・芸術

### 1、分野別講演会（5月1日）

生徒は自分の所属する分野の講義を聞いた。今年度は学年部で講師の選定をしていただいた。

分野	
産業振興・農林水産	一般財団法人アグリオープンイノベーション機構 AOI 機構（あおい きこう）
国際・グローバル	JICA 海外協力隊 知事直轄組織地域外交局地域外交課
環境・防災・自然科学	野田康代（料理人・ハンター）
健康・福祉	認定NPO法人 フードバンクふじのくに
教育	おやじの会 小田圭介
観光・シティプロモーション	JR 東海ツアーズ
文化・芸術	アーツカウンシル静岡



## 2、チーム決め（5月 11 日）

グループに分かれ、まずはマンダラートを作成した。中央に自分の好きなこと、その周りに関連することを書き、すべてのマスを埋めた。このマンダラートをもとに、生徒は自分と似たような興味・関心を持つ生徒を探し、3～4人の班を作った。

## 3、チームでの話し合い・教員との面談・フィールドワーク訪問先の選定 (6月 8 日・15 日・22 日・29 日)

グループでまずはマンダラートの中から共通のキーワードを決め、それをもとにアイデアマップを作製した。キーワードに関する課題や疑問を書きだすことで今それぞれが考えていることを可視化し、さらにテーマについて深く考える機会となった。考えるときの視点として「原因は何?」「その根拠はどこにある?」「本当に課題なの?」「誰にとっての課題?」など、様々な角度から掘り下げて深めるように指導した。その後、話し合いがどこまで進んでいるのか、担当教員と面談を行い、方向性を決めていった。その中でフィールドワークでどこへ行きどんな話を聞いてくるのかもグループで相談した。アポイントメントを取る作業も同時に行った。

## 4、壁打ちの準備・壁打ち（7月 13 日・20 日）

昨年同様、壁打ちを行った。そのための準備を7月13日に行つた。



探求と表現 A3		
命	環境	個性
平等	教育問題(いじめ、偏見、差別)	教師
夢	友達	親、3世代

6/29 アポイント準備シート

訪問候補①	訪問先名称： Tel： 住所：
訪問候補②	訪問先名称： Tel： 住所：
課題 問題意識 対象	
仮説 どうしたら改善されるか	
質問したいこと	
ジャンル（ ）（ ）班 班長（ ）	

7/13 壁打ち準備シート

決定した訪問先①	訪問先名称： Tel： 日時： 代表者氏名
決定した訪問先②	訪問先名称： Tel： 日時： 代表者氏名
テーマについて調べたこと	
夏休みに調べること(担当者)	
ジャンル（ ）（ ）班 班長（ ）	

## 5、フィールドワーク（夏休み）

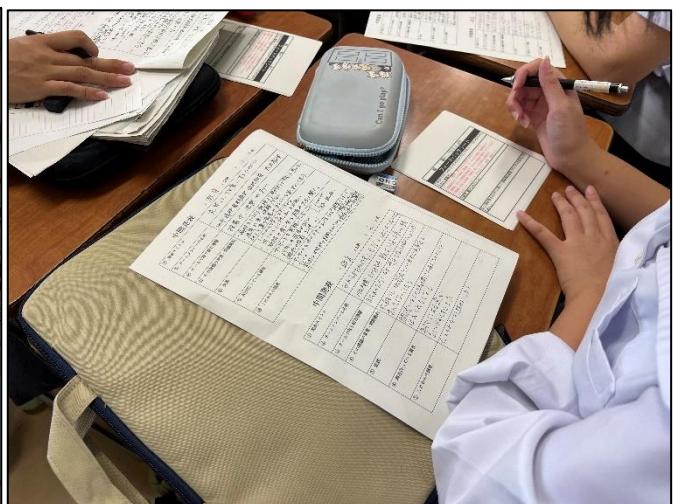
今年度は夏休みの2日間（7月24日・25日）を使ってフィールドワークを行った。夏休みということもあり、複数個所訪問したり、昨年よりも遠方へ出かけるグループもあり、効果的に活動を進めることができたようであった。

## 6、中間発表（9月14日）

以下のシートの内容について、中間発表を行った。

中間発表 ( ) 分野 ( ) 班

① 発表タイトル	
② チームメンバーの名前	
③ チームで取り組む課題	
④ その課題の背景・問題提起	
⑤ 仮説	
⑥ 現在行っている調査	
⑦ これからの調査	



## 7、ポスターセッションの準備（中間発表以降、授業は約5時間）



## 8、発表会（11月9日・16日）

2週に渡って発表会を行った。今年度はポスターセッション形式で行った。一人ですべての発表を担当するため、生徒たちは自分たちの発表内容に責任をもって取り組んでいた。質疑応答も活発で、聞いている生徒たちにとっても有意義な発表会となった。



## 9、沼津城北高校との合同発表会（1月26日）@沼津市民文化センター

共同研究3年目ということで、2年生によるポスターセッション及び代表によるステージ発表を行った。他校と合同で発表会を行いという機会は珍しく、どの生徒も意欲的に取り組んでいた。代表としてステージで発表したグループは、これまでの活動に対しての思いをしっかりと伝えることができた。また、1年生も参観したため、来年に向けての良いイメージを作ることができたのではないか。



### 【まとめ】

- 西高 GPについて、すべての項目で1年生より2年生の達成状況は高い。(紫色・緑色の回答値が大きい。)
- 発信力については大きく差が開いている。ポスターセッションを導入したことによる改善とみられる。
- 探究が進路を決める参考になっているかという項目について、あまり影響していないと回答した生徒は2年生の方が多い。進路とのつながりをどう考えさせるかが今後の課題である。
- コーディネーターによる指導は概ね8割が効果的と回答している。

### 【生徒のコメント 抜粋】

#### 1年生 探究で身についたことや、この先につがなること

- 沼津の現状とこれから自分たちが行動することで小さなことでも変えられることはあると気づいた。
- ひとつの案からどんどん考え方や思いが広がって行き、やがて大きなものになっていくことで、向上心が上がり、解決に近づいていく楽しさを学びました。
- チームで一つのテーマについて考えたりして、お互いに意見を認め合ったり、時には自分の意見をしっかり言ったりすることができるようになった
- 最初に設定した課題から少し離れてしまっても、その課題から見つかったことをまとめて繋ぐことができたので、見通しが立つようになった。
- インタビューを通して度胸がついたと思う。
- 口で言うのは簡単だが行動することが一番大変だと気づいた。
- これから沼津にもっと関心を持っていきたい。
- 問題について、自分で解決策を考えることができた。仮説を立ててから、情報を集め、策を考え直した。
- 校外に取材に行ったときは、相手の話をしっかりと聞きメモをとった。初対面の人と話すときは、いつも緊張してうまく話せなかつたりするけれど、メモ紙に書いて内容をまとめながら質問することを考えた。疑問に思う部分や、詳しく知りたい部分に気づくことができた。落ち着いて質問することができた。"
- 色々な意見をまとめたり、問題を見つけ出し、解決する方法を考えることができるようになった。
- 人前で発表したり、意見をまとめる力が身についた。この探究で他の班の発表を通して沼津の魅力について知ることができ、自分の視野を広げられた。また、自分の興味のあるものだけでなく他のことにも触れる大切さを学ぶことができた。"
- 人の意見を要約して自分の意見と比べたりまとめたりする力がついた。
- 今回で学んだことを活かして、これからの自分の進路を考えていきたい。
- 改めて、保護猫活動の現状、厳しさを知ることができた。この現状を変えられるように、自分にできることを考え、これからもにくきゅうで活動をしていきたい。
- 探求では、班員とそれぞれの役割をしっかりとこなして、時には協力、集中して取り組むことができた。そのため、社会で使うようなノルマ達成技術が身についたと思った。
- 正しい情報と間違っている情報を取捨選択する力をつけることができた。
- 自分達で、ここはどうしよう?と突き詰める事で具体的な所まで提案できると学んだ。人の話を聞き、自分たちの提案に取り入れる為、何が必要か考える力はついたと思う。
- これからは話を聞く時前もっている質問だけで無く、話を聞く中で新しい質問ができる力を付いていきたい。
- 客観的に見て何が問題なのかを知る力や正しい情報を見つけ出し使う判断力が身に付いたと思う。
- 自分が住んでいるところの課題を解決するためにみんなで考えるのがすごい面白いなと思った。また、自分の住んでいるところも課題を改めて知ることができたと思う。

- 自分の意見を考え、伝える力が身についたと思います。私は基本自分の意見は持っていますが、相手に伝えてなぜこう思ったのか伝えるのが苦手でした。しかし、今回の探究を通して自分の意見を伝えることでより良いアイデアに変わりいって良かったと実感できました。そのため、これからは恐れないと自分の意見を言うだけでもいってみようと思います。

#### 2年生 探究で身についたことや、この先につがなること

- インタビューの仕方や自分の意見を言う事。班活動で、自分の意見を言え、みんなの意見も聞くことができ、話をスムーズに進められるようになりたい
- 情報発信能力と情報収集能力がついた。人に教える時には自分がしっかりと理解することが大事。
- 誰かが意見を言わないと何も始まらず、意見を言った人に対しても肯定だけしていても良い提案をすることができないことがわかった。否定をすることでたくさんの考えが出てより良い提案につながった。
- 講師の方から、数ある障がいのなかで聴覚障がいに焦点を当てたのか質問されました。特に深く考えてていなかったのですがよく考えてみるとやはり、リモート授業には触る・見るという行為が欠かせないと思います。これは身体障がいをもつ方にとっては難しいことかもしれません。
- 同じような調べたい事を持った人と班を作って誰か1人が違う内容を調べないように全員が納得するテーマを決めて調べ学習をした。また、自分達が考えていた以上に農業の従事者が減っていることと高齢化は深刻な問題だったという事を知る事ができたまた、
- 自分はいろんな国の食についての興味がある事に気がついた。
- 高校二年生が出来ることに限界はあると思っていたけど、想像以上に可能な範囲は広いという事に気が付かされた。可能性を信じて、自分たちに何ができるのか判断できるようになっていきたい。
- 調べたいことに向かって自分たちで情報掴む力がついた。また、伝えたいことを工夫して伝える力がついた。
- 積極的に自分で提案していく力が身についたと感じます。最初は何からすればいいのかも正直わからなかったのですが、同じ班員と共に取り組んでいき、最終的に満足のいく発表を作ることができたと思います。
- 自分で考え課題を設定し、仮説をたて、その仮説を自ら取り組んでみるという流れで課題について向かえるようになった。また、データ提示が少なく感じ根拠に物足りなさを感じたのでこれからそこをカバーできるような発表づくりを心がけようと思う。また、他の班の発表を聞き学ぶことが多くあったのでさまざまな視点で身の回りのことを考えていく。楽しかった！
- 役割を決めてこうした方が良いなどの意見をはっきり言えた。自分が好きなことについての発表だったため、より熱を込めて発表することが出来た。自分の好きなことを仕事にしている出版社さんの話を聞いて、自分も好きな仕事をしたいと考えた。
- 自分とは違う価値観である方々を知ることで色々な価値観を学ぶことができるし視野が広がって広く考えができるようになった。自分が当たり前であると思っていたことが他の人にとっては当たり前ではないことは当たり前にあることが分かりました。自分たちの考え方を見直し、改めて広く深く考えることで誰かの為になりたいと思いました。
- 昨年と違い、自分の興味のあるテーマで同じものに興味がある人たちと行ったのでとてもそのテーマの興味が深まった。将来の夢への想像も膨らんだしとてもいい経験ができた。
- 今まで同じ班になった仲間とずっと練り上げてきた自分たちの提案したいことをしっかりと発表できて、またここまで極めることができてかけがいのないものを得ることができたと思う。達成感がとてもある。できればこの提案内容をより濃いものにし、実現もさせたいが、それよりも今回の自分の好きなことを探究することができたことが良かった。この先も自分の興味のあることはどんどん追求し、深めていきたい。